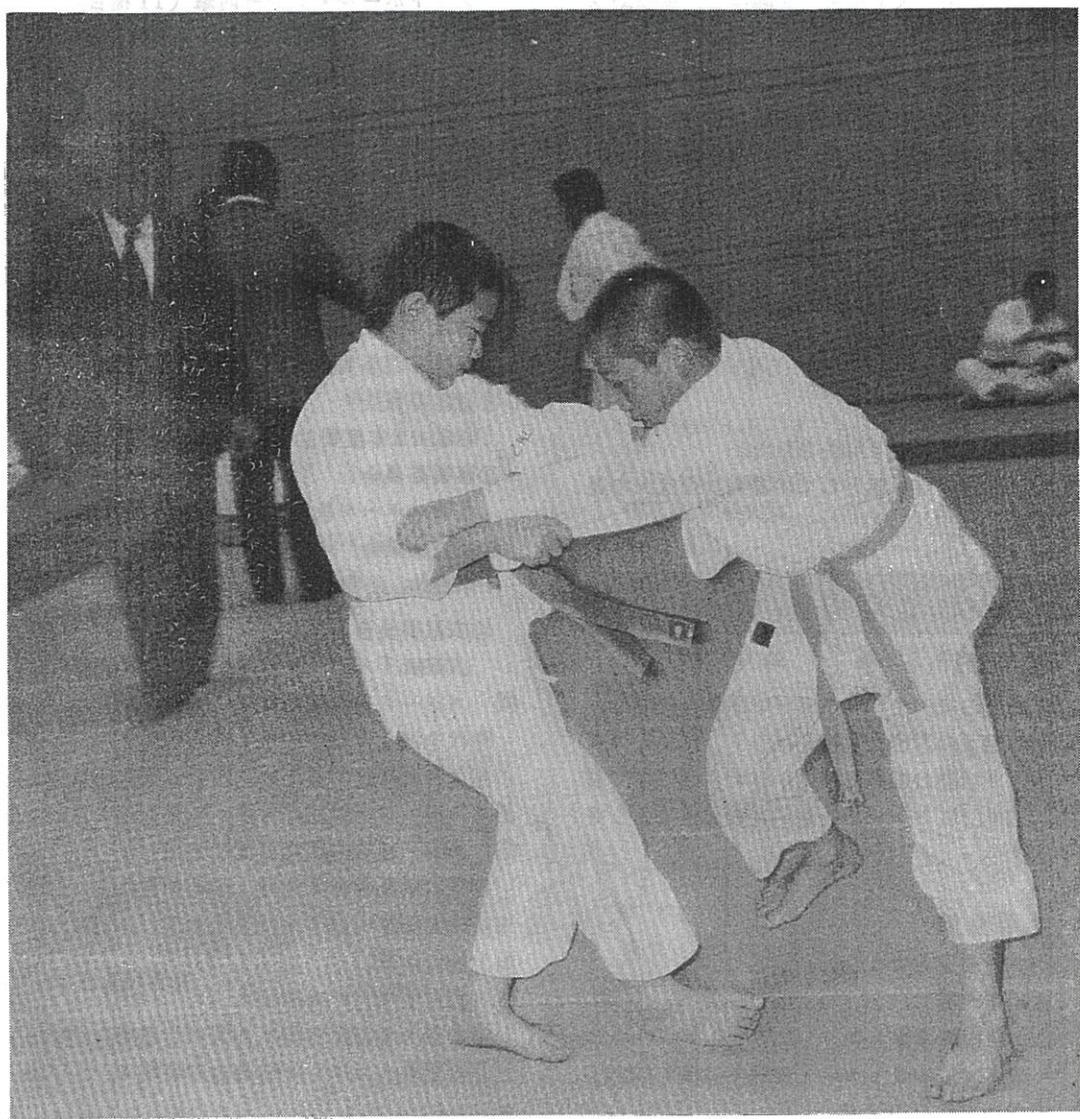


川崎



川崎
市
協
会
育
体

No.
17



昭和62年度 川崎市体育協会 総会開催

本年度総会が、去る5月19日、市立産業文化会館第4・5会議室で開催され、会長の伊藤市長を始め、副会長、参与、監事、理事、理事、評議員の54名の出席を得て、盛会裡に行われた。

当日は午後4時から理事会、5時より優秀選手の表彰式、評議員会と進み、6時には全議題が承認され終了した。その後、優秀選手賞基金として昭和薬品工業株式会社社長魚津利興氏より、当協会に対し、100万円の寄贈があり、又当協会参与である神山力氏、本田正男氏の叙勲のお祝いと続き、新教育長池田輝夫氏の紹介があり、懇親会に入った。

当日の議題として、

1. 61年度会務事業報告
2. 61年度決算報告
3. 62年度事業計画案
4. 62年度予算案

が審議され、原案通り可決された。

なお、本年度市体協としての事業計画は次の通りである。

昭和62年度事業計画

1. 基本方針

川崎市内のアマチュアスポーツ団体を統括し、加盟団体相互の緊密な連携をはかり、市民の体育・スポーツ活動の振興と市民が日常生活の中で積極的、継続的にスポーツ活動が実践できるよう寄与する。

2. 主要施策

(1) 各種市民体育大会の開催について

(市委託事業)

① 春季市民体育大会

軟式庭球・サッカー・野球・体操(4種目)

② 市制記念体育大会

剣道・テニス・弓道・軟式庭球・柔道・野球・バレーボール・相撲・卓球
バスケットボール・バドミントン(11種目)

③ 秋季市民体育大会

体操・野球・相撲・弓道・ハンドボール・柔道・バレーボール・テニス・空手道・卓球・剣道・バドミントン・陸上競技・バスケットボール・ラグビー・サッカー

(16種目)

④ 市長杯大会・その他

卓球・水泳・少林寺拳法・スケート・スキー
市民登山・こども相撲・合気道・なぎなた
ソフトボール・クレール討撃(11種目)

(2) 各種スポーツ活動の普及・充実・強化について(市体協主催事業)

① スポーツ教室

市民親子スキー教室・市民ハイキング・市民登山教室・合気道教室・婦人テニス大会
軟式庭球教室・婦人水泳教室・その他

② 講習会

日赤救急法講習会、その他

③ 日本リーグ(バスケットボール)招請開催

(3) 各種専門委員会活動の活発化

① 財務委員会

昭和62年度賛助会員募集計画等

② 事業委員会

各種スポーツ教室・講習会等の開催充実

③ 競技委員会

県総体、各種体育大会の普及・振興

④ 広報委員会

広報紙「スポーツ川崎」の発行・充実

(4) スポーツ少年団の育成・強化

時代を担う青少年に対し、スポーツを通しての健全育成に資するため、本会の育成団体でもあるスポーツ少年団の育成・強化をはかる。

(5) 選手・役員への派遣事業の充実

神奈川県総合体育大会、国民体育大会、他都市交歓大会等へ選手・役員を派遣し、競技力の向上をはかる。

(6) 指導者相互の連携強化

種目団体各指導者相互の緊密な連携をはかることにより、スポーツ指導者の資質向上をはかる。

昭和61年度 優秀選手賞受賞者

昭和61年度において各種全国大会で活躍し、優秀な成績をおさめた本市在住在勤者に対し、各種目団体より推薦された者について選考委員会で選考の結果、次の方々が受賞と決定し62年5月19日市体協総会に先立ち、授賞式が行われ伊藤三郎会長より魚津賞が授与されました。

1. 個人の部

1. 石崎 憲二 (20) 水泳
日本実業団水泳大会 100 m平泳ぎ 優勝
2. 杉沢 毅志 (20) 水泳
日本実業団水泳大会 400 m自由型 優勝
3. 相良久美子 (18) 水泳
日本実業団水泳大会 50 m平泳ぎ 優勝
" 100 m平泳ぎ 優勝
国体夏季水泳大会 100 m平泳ぎ 優勝
4. 野尻 俊宣 (23) 卓球
全日本軟技卓球大会 一般男子の部 2位
5. 栗野 常泰 (10) 卓球
全日本卓球選手権大会少年の部 2位
6. 西館 健吾 (29) スキー
国体冬季スキー大会 成年男子2部 2位

2. 団体の部

1. 科学技術学園川崎卓球部
全国高校定時制・通信制卓球大会 優勝
2. 日本鋼管男子弓道部
全日本実業団弓道大会遠的の部 優勝
3. 日本鋼管女子水泳部
日本実業団水泳大会 200mメドレーリレー 優勝
4. 法政二高ハンドボール部
全国高校総体ハンドボール大会 2位
5. 東芝女子バスケットボール部
日本リーグ 2位
全日本総合バスケットボール選手権 2位
6. 市立稲田中学校バレーボール部
全日本中学校バレーボール選手権 2位

▽表彰式



△栄えの受賞者

昭和61年度 賛助会員加入報告

61年9月より発足した川崎市体育協会賛助会員は62年3月末をもって、初年度の集計をしましたので報告いたします。

団体会員 68名 75口
個人会員 386名 429.5口
募金総額 160万9千円

前号で58団体の名簿を記載してありますので、以後の団体会員を紹介いたします。

59 東芝タンガロイ 1 64 富士電機川崎 1
60 大富士産業KK 1 65 トモエスポーツ 1
61 東芝小向工場 1 66 斉藤柔道館 1
62 銚 徳 利 2 67 川崎救護クラブ 1
63 川崎信用金庫 3 68 春陽館上野道場 1

なお、前号の続きの個人会員は30名39口でした。

本年度も市体協としましては、財務委員会にはかり、継続して賛助会員募集計画を続けてまいります。目標を180万円と予定しております。会員の方々にはなお一層のご支援をお願いいたします。

自然と心のハーモニー

川崎スキー協会副理事長 片 忠夫

健康の護符として、スポーツを始める人は実に多く、私自身もその一人である。

とりわけ、その中におけるスキースポーツは、都会人の私達に多くの教訓と、多くの心の安らぎを与えてくれている。

スポーツが大衆化された現代、心身の健康を求めて人々は動く。ごく当たり前のことであり、人間の本能とも言うべきであろうか。

しかし、私はスポーツはひとときのムード、あるいは流行であってはならないと思う。健康維持、向上はその人の生涯を賭けた、永きに亘る人生設計が必要であるからである。

個人により体力、体格、性格、能力、個性、好み等々は、それぞれ異なる。それらを踏まえた上での大衆化、生涯スポーツでないと健康の為どころか、ストレスが溜まる結果ともなりえない。お互い注意したいものだ。

1888年グリーンランドをスキーで横断した、探険家フリチョフ・ナンセンは、スキーを、キング・オブ・ザ・スポーツと称賛した話はあまりにも有名で、次の様にその理由を挙げている。

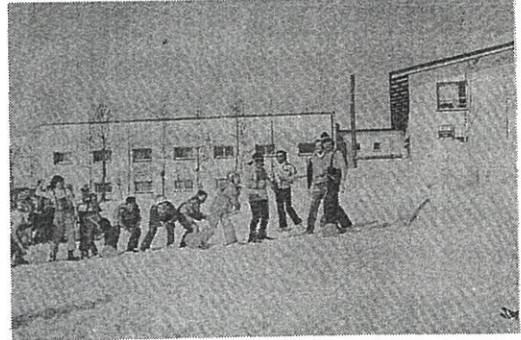
「スキーほど、筋肉を鍛え、体をしなやかにし、しかも弾力的にし、注意力を高め、巧緻性を養い、意志力を強め、心気を爽快にするスポーツはほかにない」

これほどオーバーでないにしても、なんとスキーの魅力が如実に表現したものだろうか。

川崎市に親子スキーが、産声を挙げたのは今からちょうど10年前だ。当時の企画に私も加わっていたが、バス2台、長野県戸隠スキー場でのスタートであった。それから10回目を迎える今日バス10台、330名にも膨らんだ。神奈川県でもいや、日本でも有数のビック企画であり、内容、料金共に誇れるイベントである。近い将来この中から必ず次代の選手が生まれ、次代の指導員が育つことを楽しみにしている。

スキーがこんなにも人気があり、魅力があるのはなんだろう。前述したことの外に、なんととても大自然の中で、滑り降りるスリルとサスペンスであろう。もう少し踏み込んで考えるならば、

(第一回親子スキー S 52年冬
この子供はもう20才になったろうか 筆者右端)



それは自力を使わずしてスピードをコントロールする心気の痛快さにある。

人間のストレス解消策の一番は、モーター(車とかバイク)で走るもの、あるいは自然の力(重力、水流、気流、波など)で走る、進むものをコントロールすること、制御することにあると言う。そして、雪積る野山を野うさぎの如く、野鳥の如く自由にかつ、思い切り走り回る(滑る)ことへの憧れであろう。

産業が高度化すればする程、人は自然を愛する様になるという。宇宙飛行士は、宇宙の旅から帰ると、総て平和主義者になるという。大自然の中で心身を癒すことは、それほど効果の大きいことと言える。

私達の住む川崎……110万都市にふさわしいスポーツ振興を考えながら、スキーの魅力に取り付かれた、それを次第へつなげたい。そしてこよなくスキーを愛し、自然と触れ合いながらダイナミックに人生をエンジョイしよう。

シーハイル……。



呼吸停止と人工呼吸

川崎体育救護クラブ副会長 左澤重明
日赤神奈川委嘱救急法講師

(イラスト 日本救急法教本その他より)

夏が近づいてきた。毎年のように水の犠牲者が後を絶たないのは傷ましいことであるが、呼吸停止は溺水だけとは限らない。スポーツ中、過度の暑さにさらされた時、衝突・転倒その他による頭部損傷、あるいは高峻山岳での酸素欠乏からの呼吸困難から進行する意識障害などの場合に停止することがある。

いずれの原因であっても、意識がなくなった人は筋肉が弛緩し、舌のつけ根が落ちこんで気道が

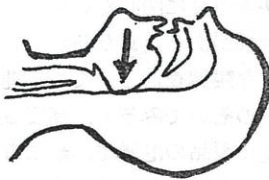


図1

ふさがり窒息をおこすことがあるので(図1)舌根沈下を防止する体位をとらせることが必要である。気道の

確保は非常に重要な基本手技であって、気道確保が十分に行われていなければいかなる人工呼吸も無意味であるばかりでなく、気道確保をするだけで、多くの呼吸停止者が自発呼吸を回復するようにならざるを得ない。舌根沈下による気道閉塞を解除する方法は(図2)



図2

のように片手を患者の額に、他方の手を下顎の先端にあて、下顎を押し上げるようにして頭を後方

に傾ける。このようにすれば落ちこんだ舌根は引き上げられて気道が開通する。

• 呼吸の有無の確認

こうして気道を確保したまま、自分の頬と耳を患者の口に近づけ、呼吸の有無を確認する。

呼吸があれば肌で呼吸を感じるであろうし、また一方では、片手を相手の上腹部において横隔膜の上下運動があるかどうかを触れ、そして眼でも素早く判断をする。呼吸がなければただちに人工呼吸を開始しなければならない。

• 水を吐かせるより先に人工呼吸をする。

呼吸停止者は、放置しておけば4~5分で心臓が停止するので、最も緊急を要する患者である。溺水者の場合、水を吐かせるために貴重な時間を費してはならない。多量の水を飲みこんで異常に胃がふくらんでいたり、口中にまで水があるような場合には、素早く患者を横向きにして上腹部を



図3

押さえる

(図3)ことがあるが水没してから短時間ならばまず息を吹き込むべきである

その方法は、①気道を確保したまま、額を押さえている手の親指と人さし指で患者の鼻をつまむ(図4-A)

②自分の口を大きく開け、患者の口のまわりにかぶせ、患者の胸が軽くふくらむまで息を吹き入れる。(図B)最初は静かに大きく連続して2回吹き込む。

③口を離し、つまんだ鼻をはなして自然に息を出させる。このとき自分の頬・耳を患者の口に近づけ、呼吸の出ていることを確かめ、また胸が沈んで行くのを見て、効果的に吹き込みが行われていることを確かめなければならない(図C)



図4

④次に心臓が停止していないかどうかを確認するために、自分の人さし指と中指の指先で、患者の甲状軟骨（のどぼとけ）の横から側方に向かって頸動脈の拍動を探っていく（図5）。頸動脈の拍動が全く感じられないのなら心停止を来しているということなので、この場合は人工呼吸とあわせて



図5

心停止の判断は極めて慎重に行うべきである。しかもまたそのために何秒もの時間を費してはならない。心停止は呼吸停止者を無為に放置した場合、4～5分で起こり、しかも救急処置も難かしいので、そのためにも人工呼吸は一刻も早く開始されなければならないのである。

幸いにして頸動脈の拍動に触れることができたならば、引き続いて図AからCの要領で息を吹き込むが、②の最初の吹き入れの時と異なり、その後は大人の場合、5秒に1回のリズムでリズムカルにA～Cを繰り返す。吹き込む息の量は、平常呼吸量の約2倍を目安とする。年齢や体格によって加減しなければならない。大人の場合、通常呼吸量は400～500CCであるので、約800～1,200CC吹き入れるが、息を吹き込んで行く時に軽い抵抗感を覚えたらそれ以上に吹き込まぬよう静かに吹き入れて行く。吹きこみすぎると種々の副障害が発生するので、吹きこみすぎぬよう。乳幼児の場合などは140～150CC程度なので、これはタバコを吸った時にフッと煙を吐き出す程度の吹き入れ量でよい。ちなみに吹き入れるペースについて、さきほど大人の場合は5秒に1回のペースと書いたが、こどもの場合は4秒に1回のペース、乳幼児の場合は3秒に1回のリズムで吹き入れる。また乳幼児の場合は首が柔かなので、無理に頭を後方に傾けると、かえって気道を閉塞し頸を損傷してしまうこともあるので、図4-Dのように片手で頭を支え、他方の手で顎先を軽く前へ押し出したり、両手で下顎を前に押し出したりして気道を確保する（図4-E）

人工呼吸は、開始したら根気よく続けなければならない。すくなくとも、この患者の生命を救うか否かは自分次第なのだという気持で、患者の自発呼吸が回復するまで、または医師もしくは蘇生法の出来る人が来て交代してくれるまでは頑張っ

◇ ◇ ◇

“なぜ体力づくり が必要か、”

歩かなくなった、体を動かさなくなった、その結果、いま“一億総運動不足”の時代だという。市民スポーツや、トリム運動に関心が高まっているのも、そんな時代背景があるためだろう。私の知人の医者という、生命観調査によっても、運動不足を生理的な面からのぞいてみると、高度成長による、車の普及、電化製品の氾濫で、歩こうとしない、車にたよる、体を動かさそうとしないので、運動不足の症状がぐんと広がりつつあるという。総理府の世論調査では、成人の半数以上が運動不足を訴え、調査の結果で運動不足を感じた人が、10人中8人もいたという。医者から見ると、健康人と病人の間に半健康人という「グレーゾーン」が増加しているという。この10数年間にのぼりつめた高度成長で、多忙になったのが、半健康人の増加となり、軌跡を同じくしているともいっている。動物としての人間が産業革命から技術革新を得て、動物の機能を失いつつある。今日の成人病や文明病と呼ばれる疾患が生じているという。これが薬で治るはずがない。患者のライフスタイルの問題にまで踏み込まなければ治療できない、そんな医者がどれだけいるかという。

医師が運動不足という言葉が最初に使われたのは15年も前だという。では体力づくりをするためには、どうしたらよいか。“忘れられた歩く”しかしいまは歩かない、体を動かさない、歩くのが健康によいと分かっているけど、ついバスやタクシーに乗ってしまう、都会では共通する自覚症

状であり、運動不足になりがちだ。歩行環境もあるだろうが、「先ず歩くことを実行しよう」。

日本体協スポーツ科学委員会、都内デパート店員3,000人について「運動量」を調べてみたら、そこでは買物などの寄り道を入れても往復の通勤で一日30分しか歩かないのが、男子で68%、女子60%と、「歩行を忘れた」若い男女の現状が明らかになった。



この内、10分未満というのが、男子23%、女子18%、都会のホワイトカラー族も大体同じではないか、と。又、体協の別の調査でも、男子40%、女子50%、年間を通して一度も4キロ以上歩き続けたことがなかった、とそんなデータが出ていた。足が交通機関であった時代、日本人の歩く基準は一日4キロと決められていたという。少し眉つばか？ 歩くことによって、処方された歩行は、末梢血管を拡張して心臓、肺機能を高め、脂肪のない筋肉質の体にする効果を持つという。カロリーの消費量でも一分間に120m（大またで力強く歩く）の歩行は9カロリーを消費し、一分間180mの緩走（息苦しさを多少感ずるスピード）で8.8カロリーを上回ると、厚生省は一日300カロリーを運動によって、消費することをすすめているが、歩かなくなった人たちはどう処理しているのか。しかし日本の都市に住む人たちは「歩きたくない」環境にあるという。抵抗なく歩ける距離を調べたら、都心では7割の人が、「300m限界」と答えたという。あきれほど実に情けない。歩道には緑がなく、せまく汚い、

歩行環境が悪いというが、歩くことによって体力づくりができるなら実行したらよい。個人差はあるが、一分間に90~100mのかなりの急ぎ足で歩くと「汗がじっとりしてくる」ペースである。初めて歩く人ではかなりきつい。でも歩き方にもいろいろある。「まず安全への考慮」そして目標を立てて徐々に目標に近づくつもりで歩けば、血液の循環がよくなり血管を丈夫にする手始めになると医者がいっている。だが、都市に住む一般人はどうだろうか。

お荷物預り所



“どなたも足はお荷物のようで”

「歩くことから、マイペースで走ることにつなげよう」

今年2月の青梅マラソンで、参加者が一万人以上のマンモスレース“走るブーム”でも、マイペースで走ろう、健康保持のためかけ足を、と宣伝していた。同じマラソンといっても、青梅のような大会は、記録は二の次、参加して汗を流すことに意義ありというわけだが、大きな団体が分化して地域にどんどん広がっている。運動不足から表にとび出して、走ってみたいいい気持ちだった、などと急に走ることは特に注意したい。初めてやられる人は、日々段階的に強化していくつもりで、歩くことから徐々に始めてゆくことが望ましい。

「走る」大都会などでは交通事情で、散歩もできない、そんな時にその散歩の代用になると、トレッドミル「歩行器」が発売されている。その他竹踏み棒も販売され、これらも体力づくりにはつながると思われるが、いずれにせよ、毎日続けて実施することで運動に耐える持久力が養えるのである。運動は酸素を血液に送り込んで、栄養を燃焼させ、物理的にエネルギーに変えると医者がいう。従って空気中から取り入れる酸素の量が大きければ大きいほど運動に耐え、持久力が強くなる。持久力を重ねれば最大酸素摂取量が増え、つまり持久力がつくということ、持久走の効用により、毛細血管の働きをよくなり、組織や細胞にたっぷり酸素や栄養分を供給する働きをすとも医者はいっている。

体力づくりが出来るなら、“先ず力強く歩くこと”を実践しようではありませんか。テレビの前

でゴロ寝から、思いついて実行するのは、大変な勇気がいるが、しかもそれはつらいことである。結局、行動に移すかどうかは、個人の生きざままで自分自身の問題だ。若い男女にも、中高年の男女の方々にも、体力づくりは“忘れられた”歩くことによって実践してはどうか。

!! 寿命伸びるか持久走 !!

(忘れられた歩き方 その1)

広報委員長 大山政次

雑感

広報委員 小島 創

今年のロンドンマラソンでは、ご存知のとおり日本の谷口選手がみごとなレース運びで優勝した。自分も市民ランナーのはしきれとして、どきどきしながらこのレースのテレビ中継を見ていた。

谷口選手がテープを切った時には感動した。しかし、うらやましかったのは、一流選手の出場するこのレースが市民マラソンだということであった。もちろん、ものすごい倍率の抽選に当たらないと参加できないらしいが、市民マラソンには違いない。放送の中でゲストと解説者がそのことにふれていたが、日本では交通事情などの理由からこうしたレースを市民参加のものにするのは難しいとのことだった。現に大きな大会には制限タイムがあり、誰でも申し込めるわけではない。

しかし、調べてみるとマラソンというのは、他のスポーツに比べて大会も多く、一般の市民ランナーが参加できるチャンスがたいへん多いことがわかる。それはなぜだろうか。たしかに今マラソンは人気がある。しかし、人気のせいだけではないだろう。一番の理由は、マラソンというスポーツが市民の中に広がってきたスポーツだからであろう。日本では、多くスポーツはその基盤を学生、そして実業団というような枠の中において発展させてきた。そのことは、どうしても「勝つ」ことにウエイトをかける結果となり、純粹に運動することの喜びを味わうという市民スポーツの側面からは遠ざかるようになる。わずかに草野球をはじめとする数少ないスポーツが市民スポーツの灯を

ともしてきたといえるだろう。それが悪かったということではない。それはその時代の、その社会の流れが描くことのできたスポーツの形だったのだから。

このようなスポーツのあり方に対して、まったく異なった視点から「生涯体育」という考え方が示され、これによって新しい方向が示されることになったわけである。マラソンは場所や相手の制約なしに取り組めるスポーツとして、この新しい方向に沿ってうまく発展することのできたスポーツだと言えるだろう。

「生涯教育」の中身にはここではふれないが、今後はこのような流れに沿ったスポーツが増えてくるであろうし、どのスポーツも「生涯を支えるものとしての市民スポーツ」との関連を考えていく必要が出てくるだろう。これはもう個々のスポーツの問題ではなく、スポーツ界全体の問題である。そのなかで体育協会はどんな形で役に立っていけばいいだろうか。これは協会員一人一人が課題として念頭におかなくてはならないだろうな、そんなことを考えさせられた。

国体観戦記

川崎市スケート協会会長 浅野浩志

第42回国体冬季大会

軽井沢で1月27日盛会裡に開催された。

「雪と氷に若さが光る」をテーマに、長野県軽井沢町の西武スケートリンクで皇太子殿下御夫妻をお迎えして行われた。この日快晴で、浅間山おろしの寒風は、肌を刺すようであった。

式典は、今年の夏・秋国体の開催県に決定している、沖縄県選手団を先頭に、45都道府県の役員・選手2,000名が、各種カラフルなスポーツウェアの選手団が入場、木曾節をアレンジした行進曲によって入場行進し、盛大な盛り上がりを見せた。皇太子のお言葉があり、選手を代表して、地元代表今村選手が、「郷土の榮譽と、スポーツの栄光のため、正々堂々競技することを誓います」と宣誓して開会式を終了した。午前11時30分から、アイスホッケーが開催された。本県代表アイスホッケーの選手は、本市在住の混成チームで、鳥取県と対戦、1対0で勝利を得た。スピード、フィ

ギョア共振わなかった。皇后杯は8位になり、男子は参加点のみで終わった。

V2成らず — 郡市対抗駅伝大会 —

陸上競技協会 皆川敏明

去る2月8日(日)第41回郡市対抗駅伝大会が小田原～相模湖間(9区間・71.1 Km)に26郡市が参加して行われ、わが川崎はV2を目指したが、好不調の波が激しく、惜しくも4位に終っ

てしまった。

1区大谷(東急)は2位で無難なスタートを切り、3区森田(専大・現日産)の区間1位、8区大八木(駒大・現ヤクルト)の区間2位の力走はあったものの、継ぎの区間が今一つ振わず、残念な結果に終わってしまった。

この結果をよい教訓とし、来年以降のV奪還へ向けて尽力していきたいと思います。

最後になりましたが、応援をいただいた関係者の方々に紙上を借りて厚くお礼申し上げます。

川崎市体育協会参与

神山 力氏 本田正男氏

“本年度春の叙勲において勲五等双光旭日章受賞”



(神山 力氏) を申し上げます。

永年にわたり本協のため、ご尽力をいただいた、本協会参与の神山 力氏・本田正男氏が、この度の叙勲にあたって、勲五等双光旭日章を受賞された。両氏とも本協設立以来の功労者として、特に神山氏には卓球を通して全国的な活躍をされ、本田氏にはバドミントンの副会長と同時に、川崎市スポーツ振興審議会委員として、本市のスポーツ界の発展に寄与された。本協としても非常に榮譽のあることとして、会員の皆様方と共に喜び



(本田正男氏)

第31回子ども相模大会

— 好天に恵まれ盛況に終る —

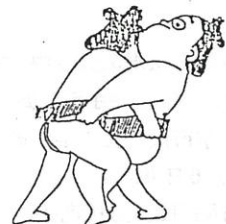
5月5日、こどもの日に恒例のこども相模大会が、富士見公園相撲場で行なわれた。

毎年、こどもの日におこなわれるこの大会は、固定したファンも多く、こどもたちの熱戦に見物の父兄たちが、盛んな拍手を送っていた。

4、5、6年の小学生248名が参加したなかには女子も3名が加わって大きな声援を受けていた。

以下成績は次のとおりで、なお個人戦の優勝者は、8月に両国の国技館で行なわれる全国わんぱく相撲大会に川崎市代表として出場する。

- ◎ 団体戦 優勝 久末小チーム
- 2位 車道場チーム
- ◎ 個人戦 4年優勝 佐藤宏之(久末)
- 5年 “ 木下 誠(向丘)
- 6年 “ 窪田和則(車)



昭和62年度 加盟団体主要事業予定

<p>(陸上競技協会)</p> <p>7月 5日(日) 市陸上競技選手権大会 (三ツ沢競技場)</p> <p>10月18日(日) 秋季市民陸上競技大会 (")</p> <p>(野球協会)</p> <p>9月1日～4日(金) 市長杯選抜市民軟式野球大会 (大師球場)</p> <p>(バレーボール協会)</p> <p>7月12日(日) 市制記念大会一般男女9人制(市川崎高体他)</p> <p>10月 4日(日) 秋季市民6人制大会高校男女 (")</p> <p>10月11日(日) 秋季市民6人制大会一般男女 (")</p> <p>11月 8日(日) 秋季市民9人制大会一般男女 (")</p> <p>(バスケットボール協会)</p> <p>11月21日(土)～12月20日(日) 秋季市民総合大会 (市体育館他)</p> <p>2月20日(土)～3月21日(祝) 男女一般選手権大会 (")</p> <p>(バドミントン協会)</p> <p>8月23日(日)・30日(日) 市制記念大会団体戦 (市体育館他)</p> <p>11月22日(日)・29日(日) 秋季市民大会シングルの個人戦 (")</p> <p>(卓球協会)</p> <p>7月19日(日) 市制記念卓球大会高校男女の部 (多摩高 高津高)</p> <p>8月未定 市制記念卓球大会中学校男女の部 (未定)</p> <p>11月14日(土)・15日(日) 秋季市民大会中学・高校・一般(市体育館)</p> <p>3月 6日(日) 市長杯団体対抗兼団体選手権大会 (")</p>	<p>(テニス協会)</p> <p>10月11日(日) 秋季市民大会 (富士見・等々力コート)</p> <p>(軟式庭球協会)</p> <p>7月 5日(日) 市制記念大会一般の部 (富士見コート)</p> <p>8月 3日(月)・4日(火) 市制記念大会中学校の部 (")</p> <p>10月18日(日) 秋季市民大会中学校の部 (")</p> <p>11月15日(日) 秋季市民大会一般の部 (")</p> <p>11月23日(祝) 秋季市民大会高校の部 (")</p> <p>(柔道協会)</p> <p>10月18日(日) 秋季市民柔道大会 (市体育館)</p> <p>(剣道連盟)</p> <p>6月21日(日) 市制記念剣道大会 (市体育館)</p> <p>11月22日(日) 秋季市民剣道大会 (松下体育館)</p> <p>(弓道連盟)</p> <p>7月 5日(日) 市制記念弓道大会 (富士見弓道場)</p> <p>10月18日(日) 秋季市民弓道大会 (")</p> <p>(相撲連盟)</p> <p>7月19日(日) 市制記念相撲大会 (富士見相撲場)</p> <p>10月10日(祝) 市民スポーツ教室 (")</p> <p>秋季市民相撲大会</p> <p>(山岳協会)</p> <p>6月19日(土)～21日(日) 市民登山教室(学科) (尾瀬沼～尾瀬ヶ原)</p>
---	--

7月 5日(日)
市民登山教室(実技) (奥多摩)

7月31日(金)～8月3日(月)
市民アルプス登山 (北ア白馬岳～連華温泉)

10月17日(土)～19日(月)
秋の市民ハイキング (尾瀬～桧枝岐)

(水泳協会)

8月 3日(日)
13回学童泳力記録会 (等々カプール)

8月30日(日)
市民水泳競技大会 (")

(スキー協会)

1月13日(水)～17日(日)
市民スキー教室 (蔵王温泉スキー場)

2月19日(金)～21日(日)
市民スキー大会 (会津高杖スキー場)

(スケート協会)

2月 1日(月)～3月30日(水)
市長杯争奪ホッケー大会 (神奈川スケート場)

2月21日(日)
市民スピード大会 (向ヶ丘スケート場)

(ラグビーフットボール協会)

9月23日(祝)
市民7人制大会 (等々カグラウンド他)

10月18日(日)～12月13日(日)
秋季市民大会社会人(市長杯) (")

(サッカー協会)

6月中旬～11月中旬
秋季市民大会(リーグ戦) (上平間他)

9月19日(土)～11月15日(日)
少年松村杯争奪大会 (北見方他)

12月中旬
秋季市民大会(決勝トーナメント) (上平間他)

1月上旬～3月中旬
協会長杯大会 (")

(体操協会)

8月30日(日)
秋季市民大会 (市体育館)

(少林寺拳法協会)

10月又は11月
川崎市民大会 (幸スポーツセンター)

(空手道連盟)

11月15日(日)
16回市民空手大会 (市体育館)

(ハンドボール協会)

6月21日(日)～7月5日(日)
夏季大会 (市川崎高)

8月28日(金)～30日(日)
秋季市民大会高校の部 (多摩高)

9月20日(日)～10月4日(日)
秋季市民大会一般の部(川崎北・住吉・菅高)

11月 1日(日)～15日(日)
秋季市民大会中学の部 (未定)

1月31日(日)～2月11日(祝)
室内大会 (市川崎高体)

(なぎなた連盟)

7月12日(日)
9回市民なぎなた大会 (石川記念武道館)

(ソフトボール協会)

9月～10月
市家庭婦人大会 (各所)

9月～10月
壮年区大会 (各所)

11月 8日(日)
実業団秋季大会 (東芝タンガロイ他)

(合気道連盟)

10月12日(日)
市合気道演武大会 (石川記念武道館)

(クレー射撃協会)

7月 5日(日)
夏季・市長杯射撃選手権大会 (県立伊勢原射撃場)

10月
各区対抗射撃大会 (")

種目協会連絡者

順	協会名	氏名	〒	住 所	自宅電話	勤 務 先	勤務先電話
1	陸上競技協会	芳賀 学人	236	横浜市金沢区富岡西 5-27-14	045-771-1543	市立今井中学校長	722-1458
2	野 球 協 会	高橋 章	215	川崎市麻生区王禅寺 708-16	954-8133	中原区役所市民課	733-3111
3	バレーボール協会	前田 亨介	214	川崎市多摩区南生田 2-12-17	955-8172	市立川崎高校定時制	244-4981
4	バスケットボール協会	岡崎 彦雄	214	川崎市多摩区登戸 1972	911-6172	市立商業高校 定時制	522-0125
5	バドミントン協会	伊藤 一好	240	横浜市保土ヶ谷区岡沢町 4-1	045-335-2337	いすゞ自動車川崎	277-1111
6	卓 球 協 会	古谷 保	211	川崎市中原区等々力 3299	722-4304	明治製菓製菓部二課	548-6547
7	テ ニ ス 協 会	篠原 房高	210	川崎市川崎区藤崎 2-3-10	244-1778	日 本 油 脂	03-283-9146
8	軟式庭球協会	中森 忠也	330	埼玉県大宮市天沼町 1-621-124	0486-42-5360	(株) 東 芝 柳 町	511-4111 (内)-4282
9	柔 道 協 会	矢野 宣義	211	川崎市幸区古市場 1-46	522-4718		
10	剣 道 連 盟	上野 富夫	213	川崎市宮前区向ヶ丘 1240-66	976-2550	千代田電気 KK	244-5461
11	弓 道 連 盟	小口 常雄	246	横浜市瀬谷区阿久和町 4326-10	045-364-3719	鈴 木 興 産 KK	355-9435
12	相 撲 連 盟	木村 三郎	226	横浜市緑区竹山 4-3-3 4311-1112	045-931-0522	富 士 電 機 KK	333-7111
13	山 岳 協 会	大箭 俊介	211	川崎市中原区刈宿 194	411-7452	市民ミュージアム 準備事務室	200-3248
14	水 泳 協 会	長谷川武雄	210	川崎市幸区戸手本町 1-9	533-1086	多摩川スイミング スクール	422-5222
15	ス キ ー 協 会	山本 信義	230	横浜市鶴見区栄町通 4-46-5	045-502-5050	市港湾局企画課	200-3059
16	スケート協会	浅野 浩志	210	川崎市幸区幸町 2-691	522-2761		
17	ラグビーフット ボール協会	今村 貞	211	川崎市中原区 市ノ坪 581-1-303	433-7286	東芝堀川 輸送センター	533-1537
18	サッカー協会	古岡 幹雄	214	川崎市多摩区長尾 7-29-15	866-8188	(株) ミキスポーツ	822-8885
19	体 操 協 会	山本十三二	222	横浜市港北区太尾町 802	045-531-6043	市立渡田中学校	244-4705
20	少林寺拳法協会	岩田 章三	214	川崎市多摩区生田 7-17-8	932-1280		922-2263
21	空 手 道 連 盟	森 明夫	213	川崎市高津区子母口 976	788-3648		
22	ハンドボール協会	斉田 英二	211	川崎市中原区小杉御殿町 2-149	733-2078	市立工業高校	511-7336
23	なぎなた連盟	磯谷 文子	214	川崎市多摩区三田 2-7 西三田団地 1-3-401	922-1459		
24	ソフトボール協会	水野 豊	230	横浜市鶴見区岸谷 2-7-19	045-572-0890		
25	クレー射撃協会	岡田 末治	210	川崎市川崎区中島 1-2-2	222-4544		
26	合気道連盟	大村 浩章	213	川崎市高津区末長 650-1	865-1435		
27	高等学校体育連盟	小林 悠二	243 04	海老名市上郷 992-11	0462-33-3364	県立百合ヶ丘高校	977-8955
28	中学校体育連盟	伊藤 金蔵	230	横浜市鶴見区岸谷 3-16-4	045-581-7114	市立野川中学校	766-1117

● 広報委員会より

「スポーツ川崎」の発行も、なお一層充実したく、本年度は三回発行を計画しております。お読みになってお気づきの点がありましたら、ご意見をお寄せください。各種目団体の活動状況など記事・写真等絶大なるご支援をお願いします。

昭和62年7月1日発行
川崎市体育協会広報紙
編集・発行
川崎市体育協会広報委員会
〒210
川崎市川崎区宮本町6番地
川崎市教育委員会体育課内
電話 044-200-3312